

故事成語

逆鱗に触れる

夫れ竜の虫たるや、

柔なるときは狎らして騎るべきなり。

然れども其の喉下に逆鱗の径尺なる有り。

若し人々に嬰るる者有らば、

則ち必ず人を殺す。

人主亦た逆鱗有り。

説く者能く人主の逆鱗に嬰るること無くんば、

則ち幾し。

そもそも竜という動物は、

おとなしいときは飼慣らして背に乗ることができる。

しかしその喉の下に直径一尺の逆さまに生えた鱗がある。

もしそれに触る者がいたなら、

竜は必ずその人を殺す。

人間の君主にもまた逆鱗がある。

意見を述べる者は君主の逆鱗に触れないようにすることができれば、

成功に近い。